

令和7年度 第1回豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録要旨

○日時 令和7年5月26日（月）10時～

○場所 豊川市役所議会本34会議室（本庁舎3階）

○議題

（1）会長・副会長の選出

（2）次期豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

（3）豊川市シティプロモーション戦略の策定について

○出席者（敬称略）

（委員）

◇出席8名

竹田 聡 愛知大学 教授 ◎会長

長谷川完一郎 豊川商工会議所 専務理事 ◎副会長

豊田 圭祐 豊川青年会議所 理事長

牧野 延全 ひまわり農業協同組合 次長

井澤 孝 豊川信用金庫 地域支援部 部長

平賀菜由美 豊川市観光協会 専務理事兼事務局長

宮地 清和 豊川ビジョンリサーチ 監事

田中 言羽 いちのみや子育て広場”にこ” 代表

（事務局）

企画部長、次長、企画政策課長はじめ企画政策課員4名

議題（2）次期豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（資料1）

事務局から資料に基づき説明

(委員)

数点あるのですが、まず1点。シティセールスをシティプロモーションに変更しましたが、セールスとプロモーションの違いを知りたいです。もう1点は、総合計画の「基本計画＝まち・ひと・しごと創生総合戦略」というような形で聞こえたのですが、その解釈で良いでしょうか。

(事務局)

「シティプロモーションを進めます」についてですが、シティセールスについては過去何年もやってきましたが、さらに総合的にシティプロモーションを打ち出し魅力発信などを広くやっていくということで、今回「シティプロモーションを進めます」という表現に変えております。

(委員)

具体的にセールスとプロモーションの違いはあるのですか。プロモーションの方が範囲が広いということですか。

(事務局)

今回の名称変更の背景でございますが、これまでのシティセールスはまちの売り込みを主軸にとらえておりました。今後は豊川市の魅力売り込むだけでなく、まちそのものの魅力の磨き上げを進めていく必要がございます。ですから、シティセールスから取組の強化を図るという意味と、そしてそれを含めて幅広く進めていくということも込めまして、シティプロモーションという表現に改めております。

このシティプロモーション、シティセールスという表現は、全国的には両方とも使われております。最近の流れでございますが、報道機関等で掲載される表現では、シティセールスよりシティプロモーションの方が格段に多くなってきております。その表現が今の時代のトレンドといいますか、そこに合う表現ということも名称を変えた意図としてとらえております。以上でございます。

(委員)

ありがとうございます。セールスというと、今ある地域の魅力を、他市他県へ行って発信をしてくるという部分ですが、プロモーションというと相互関係でより既存のものからさらに磨き上げる活動等も含めた広い範囲のまちづくりというようなイメージでよかったですでしょうか。わかりました、ありがとうございます。

(事務局)

2点目の基本計画と総合戦略の関係ですが、委員がおっしゃるとおり、基本計画を戦略として位置付けて推進するということになっています。

(委員)

我々が今まで携わってきた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは何となくアグレッシブというか、能動的な仕掛けをしていくというようなイメージが強かったのですが、総合計画の方については、既存の市民の方の普段の暮らしにす

ごく寄り添うような内容まで落とし込んであったのではないかというイメージを持っています。その辺のバランスがどうなのかと思います。イコールにしてしまうと、そこで漏れてしまう部分があるのではないかと気になったのですが、その辺はどう整理されましたか。

(事務局)

総合計画では具体的な事業を位置付けた実施計画を定めていますが、これまでの総合戦略の事業である人口減少や東京一極集中の是正を目的とした事業などについては、実施計画の中でも重点事業として位置付けていくということを想定しております。重点事業の設定の仕方や評価方法についてはまだ検討中ですので、ご意見いただきながら進めてまいりたいと思います。

(委員)

そうすると、以前より項目が増えてくるイメージですか。

(事務局)

現在の実施計画の中では、マニフェスト事業や総合戦略事業、新規事業を重点事業に定めております。新しい総合計画の中での重点事業の選定方法を今後検討していきたいと思っておりますので、引き続きご意見いただければと思います。

(委員)

ありがとうございます。あと2点お願いします。

1つは、基本方針3「多様な主体との協働・連携」という部分が、市の中という印象を受けるのですが、大きな市や他県から見たら豊川市はたいして大きな市ではないと考えると、他市との連携の部分があまり意識されていないように感じてしまうのですが、その辺で何か議論はありましたか。

(事務局)

基本方針3「多様な主体との協働・連携」については、民間事業者との連携の強化を念頭に整理したものです。国や愛知県、東三河広域連合との連携については、基本計画素案である資料1－6の21ページをご覧くださいと思いますが、「行政分野別の進捗に留意すること」として、色々な連携の中段部分に整理をしております。この中で、国、県、東三河広域連合で、他の自治体との連携なども進めていくということも記載をしております。また112、113ページ、政策7【地域・行政】、施策「7 持続可能な行財政運営の推進」の中で、主な手段として広域連携の推進などを記載しておりますので、他自治体との連携をこういったところ表現していると考えています。

(委員)

ありがとうございます。それぞれの部門で連携するところがあると思うので、少し意識的にやっていただければと感じました。

最後が、今回の人口ビジョンで、人口を維持していこうとする動きの中で合計特殊出生率を軸に置いたということで、若い世代の減少を少しでも防ぐといっ

た説明であったと思います。その辺が、現行のまち・ひと・しごと創生総合戦略の子どもを産みやすいという部分であろうかと思うのですが、やはり外から人の流れを作って関係人口を増やしていくというところも重要であると思います。人口ビジョンの中で他市他県からの関係人口を増やし、人口をどうしていこうというのがわかりにくかったので、その辺も市としての方向性があれば知りたいです。

(事務局)

国、県の総合戦略でも、人口を維持できる人口置換水準である合計特殊出生率2.07を採用しながら人口ビジョンを構成しており、豊川市もこれを採用しているところです。ただし、国と県は2040年まで2.07を目指すというところを、豊川市は合計特殊出生率の推移をみながら、2060年まで緩やかに人口を維持していく設定になっています。

(委員)

豊川市を知ってもらい、関係人口を増やししながら移住定住につなげるというような話もあると思うのですが、そちらの方向性について、どういう指標を持ってとらえていくかというのがわかりにくいかと思います。

(事務局)

総合計画の基本計画で定める総合的な指標として、転入・転出者数というものがあります。そちらをとらえつつ、合計特殊出生率の改善を含めて人口を維持していくといったところを計画の中で示しています。

(委員)

その2本立てで計算がされているということですね。人口推移の予測のパターン3というのは、それも含めてということでもわかりました。ありがとうございます。

(委員)

色々な計画をしていただいて非常に素晴らしいと思うのですが、先ほど別の委員からのご質問にもあった合計特殊出生率の話もそうですが、お話を伺っていて思うことは、実際の見通しはなかなか苦しいかなと感じます。こういう数値に持っていきたいということは非常にわかりますし、やはり社会は人数なので、特に生産年齢人口が多いというのは確かに重要だと思います。ただし、社会はとても変化していますので、本当に極端なことを申し上げれば、例えば1人目が生まれたら100万円、2人目が生まれたら500万円、3人目、4人目生まれたら1,000万円あげると言われても、多分出生率はそこまで上がらないと思います。これだけ経済や社会環境が変化している中、出生率を増やしていくことに注力することが本当に大事なことになるのかなと思います。むしろ、人口が減少する中でも、今生きてらっしゃる方やこれから生まれてくる少ない子どもたちがいかに幸せに生きられるかということを考えていった方がいいのではないかと感じます。今、技術も進歩しており、AIをはじめロボット技術は非常に進んでい

ます。アメリカや中国の先進都市など、ロボットの活用だとか、そういったところを一度見てこられると、本当にこの先のビジョンというのが描きやすくなると思います。今後、人間社会にかなりの確率でロボットが入ってきて、日本では無理かもしれませんが、人間の社会生活を維持するためにロボットの果たす役割が大きくなっていく社会が、5年、10年先、世界では実現するところができる可能性があります。そういった時代の中にあって、すでに色々な計画を立てていただいているので、これをどんどん前向きに進めていただければと思いますが、この先計画を見直す時に、人口が減少していく、出生率も減っていく、そういった中で、どうしたら社会が豊かで、人々が幸せに生きることができるのか、意識をチェンジしていくことが必要だと思います。今日の資料には非常に色々な指標がありますが、そこをまたいつか再評価するときには、そういった方法、指標を考えていただきたいと思います。考えを変えていただいて、人口が減っても幸せに生きるためにはどういった評価指標が必要なのか、そういったことでも評価できるかというのかと思います。そうすれば、豊川市の魅力が他の地域と全然違うということで、もしかしたら人口も自然増するのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(委員)

とても多くの資料がある中、説明資料を抜粋していただいてありがとうございます。とてもわかりやすいと思いました。1つ提言させていただくと、資料1-7の11ページ、こちらがとても重要だと思っています。「目指すべき将来の方向」に箇条書きで示された内容をもっとわかりやすく、ボリュームを入れた方が色々な意味で良いのではないかと思います。

それから、豊川市には高校がいくつかありますので、高校生に対し豊川市の魅力を伝えるのが重要だと思います。高校時代というのは将来のことを真剣に考える年齢かと思いますが、勉強や部活に多くの時間を充てることになります。自分がここに住んでいくうえで便利なのかどうか。スーパーもたくさんありますし、駅もたくさんあります。大阪や東京にも行きやすい場所であり、住みやすく、土地や家も都市部より安く手に入れます。名古屋や東京、大阪に行きたいではなく、豊川市で住む便利さ等を写真や冊子、データでも良いので、市民に向けた具体的なわかりやすいプレゼンテーションをするとよいのではないのでしょうか。

また、今、観光協会が実施している「マイストーリー豊川」という体験プログラムがあります。こちらは、2時間から半日の体験プログラムになるのですが、皆さんの話を聞くと、ものすごく遠くへ行かなくても豊川でこんな体験ができたとか、こんなこと知れたという感想をいただいています。予約からクレジットで決済をしていただいております、当初、クレジットでは批判があると思っていたの

ですが、全くありませんでした。チラシやポスターをつくらず、全てSNSや情報配信で集客をしましたが、本当に想像と違ったことが起きていると感じています。

デジタル化で予算をかけずに、高校生をターゲットにして、大学は遠くへ進学しても就職は豊川市にもどってきてもらえるよう、豊川市の企業をアピールしてはどうでしょうか。ものづくりの会社は、そこで何をやっているかがよくわからず、外部から見るととても大変そうで、自分ではできないのではないかと思います。逆に一見楽しそうな仕事の方が携わってみて大変だったりする場合もあると思います。地域の企業のアピールを、高校生ぐらいをターゲットに早い段階から具体的な事例を取り入れて実施していくと、将来の目標としてのイメージが湧くと思います。別の会議で、子ども達のアンケート調査結果に、「豊川市にはもう住みたくない」とか「出て行きたい」といった厳しいアンケート結果を見たものですから、観光協会でもできることを一緒になってやっていきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。具体的な事案については、行政分野別計画の方でわかりやすい表現をし、伝わるような計画にして参りたいと思います。

(会長)

今のお話を聞いていて思ったのですが、高校生を対象にそういうことを実施すると、シビックプライドの醸成に繋がっていくと思いました。せっかくシティセールスからシティプロモーションに変えていくわけですので、そういったことを実施しながらシビックプライドを醸成していくことが、例えば一旦進学で市外に出た子がまた戻って市内で就職してくれるとか、そういったことに繋がると思いますので、是非参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

今まで、この総合戦略会議の中でいろいろ教えていただいて、どうも総合計画と総合戦略の関わりがなかなか不明確で、どういうふうに分けて、或いは一緒にして考えた方がいいのか、その位置づけがよくわかりませんでした。今回、総合計画に総合戦略を取り込んでいくのであるならば、私のイメージのとおりの方かなと思います。総合計画自体は他の市町、地方公共団体にもあると思うのですが、そこも同じような考えでやっているのでしょうか。

(事務局)

総合計画は現在は法律で定められたものではなく、豊川市を含め、どこの自治体も独自の判断で策定しているところです。総合戦略の一体化については、すでに総合計画と一体化して事業を進めている自治体もあります。そういった流れを踏まえながら、豊川市としても一体化して推進する方針を定めて、第7次総合計画の策定を進めているところです。

(会長)

質疑は以上とします。事務局は意見をまとめていただくとともに、総合戦略は総合計画の一部でもあるということになりますので、総合計画審議会への報告や素案への反映をお願いします。

議題（３）豊川市シティプロモーション戦略の策定について（資料２）

事務局から資料に基づき説明

（委員）

今までの豊川市シティセールス戦略プランに対する評価や振り返りは、今年度の戦略会議のどのタイミングでお示しいただけますか。

（事務局）

策定する戦略の構成として、前段部分に現行プランの取組評価・総括をしたうえで、できていることを伸ばしていく、もしくは課題となっているところに取り組んでいく、といった内容を次期戦略の方向性として示す予定です。策定にあたり、わかものワークショップ等でも取組の現状を説明しながらアイデアをいただく予定です。１１月の戦略会議では、現行計画の評価や振り返りのまとめをお示したうえで、新しい戦略案を提示できたらと思います。

（委員）

これまでの取組内容の成果・課題や、わかものワークショップ、トライアル活動戦略会議での内容も踏まえて、次期戦略を考えるということでしょうか。

（事務局）

はい、そうです。

（委員）

市民参画にあたり、「若者」という言葉が多く出てきます。今回策定するシティプロモーションの対象が「若者」という認識でよいでしょうか。

（事務局）

メインターゲットを「若者」とし、特にご意見をいただきたい年代ととらえています。

（委員）

わかものワークショップなどで出る、発信方法のアイデア・意見を参考にすることで、他市他県の若者にも刺さりやすいシティプロモーションになるということだと思います。現行の戦略内にある「イベントサポート制度」は、豊川市の特色的な取組だと思います。この制度によって、市民主催のイベントが多くあり、近隣市からも評価されていると感じます。現行の振り返りという点で、この制度を活用している方々がどのようにシティセールスを意識して成果を上げてきたのか、意見をいただく場があってもよいのではないのでしょうか。

（事務局）

多様な方の声を聞いてアイデアを出していくというひとつのご提案として理

解しました。わかものワークショップでは、広報大使にも参画をしていただきますが、豊川市の魅力を発信していくアイデアについて、行政とは違う立場から、参加者と一緒に意見交換をしていただきたいという意図もあります。マルシェなどを主催するみなさんも含めて、豊川市ですばらしい活動をしている人と参加者が交流できる機会をつくりたいと思います。また、移住定住サイト「CITY AND PEOPLE」でも、60人弱の市民のみなさんに豊川市の魅力を話していただいています。サイトに掲載している方と、わかものワークショップなどの参加者がディスカッションできる場をつくりながら、戦略を策定していきたいと思います。その中で、「イベントサポート制度」の実績にも触れられたらと考えています。

(委員)

資料2-1の策定体制の部分に、そういった表現が入ればよいと思いました。わかものワークショップで意見を出してもらおうとは思いますが、ランチミーティングや飲み会のような、かしこまった場ではない方が本音を出せてよいと思ったので、検討をお願いしたいです。昨年度の戦略会議でも提案しましたが、戦略策定後の市の運営体制として、農業協同組合や商工会議所などからの出向というかたちで、役所内に常時在籍している方がよりよいシティプロモーションを進めていけると思いました。こちらの検討もお願いします。

(事務局)

豊川市のシティプロモーションに取り組む課が受け入れるという理解でよろしいでしょうか。

(委員)

はい。連携というものの、私たちもプロモーションについては専門ではないため、発信が弱くなってしまう。B-1グランプリのときのように、民間の職員が市役所に出向し、シティプロモーションを強化する年度があってもよいのではないのでしょうか。

(事務局)

B-1グランプリでは、平成24年10月から平成25年11月までにかけて、ひまわり農業協同組合様や豊川信用金庫様から1人ずつ受け入れた実績があります。また、平成9年度から平成26年度まで、2年度に1度、市からも商工会議所に職員を派遣をした実績があります。職員の受入や配置については人事担当部局の所掌になるため、ご意見ををお伝えします。

(委員)

予算は必要になりますが、SNSにて広告を配信し、デジタルで情報を取得する人にも広く周知するのがよいと思います。観光協会でも一昨年から広告を利用して、ターゲットとなる年齢やエリア・趣味嗜好などを細かく設定でき、数千円から配信が可能です。フォロワー増加にもつながります。集中的に予算をかけて、デジタルでの広告戦略をすることで、フォロワーが増え、市民が市の魅

力を発信していけば、自ずと情報が広がっていくと思います。ふるさと納税や移住関係の内容を広告で配信することも視野に入れて、戦略に含めていけたらよいのではないのでしょうか。

(事務局)

現在まさしく検討している部分で、参考にさせていただきます。ありがとうございます。

(委員)

豊川信用金庫でも、高校生にアイデアをいただいて、取組につなげてこうしているところです。新城市や奥三河のPRをしていこうと一生懸命考えて行動に移しています。そうした市民参画において我々も協力できる部分があるので、ぜひお声がけください。

(事務局)

現在も、豊川市などの情報発信にご協力いただいております、ありがたく思います。今後、わかものワークショップで出たアイデアのPRも依頼することになるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

シティプロモーションのターゲットは国内ですか。

(事務局)

戦略策定にあたりターゲットを定めたいと検討している段階です。

(委員)

現行の戦略は国内向けだと思います。他市は海外への発信も考えているところが増えているので、豊川市はどうするかが気になりました。

(事務局)

海外にも目を向けるべきだと思いますか。

(委員)

海外の人はSNSで情報を得て訪れてくれるケースがあります。そのため、国民に豊川市の魅力をしっかりと伝え、発信してもらい、海外の人に伝わればよいと考えます。その際、受入体制を十分に整えている必要はあると思います。今回の策定体制にヒアリングの記載がなかったので、海外の人の意見が必要ならばヒアリングを含めるとよいかと思い、質問をしました。

(事務局)

「シティセールス」から「シティプロモーション」に変わったことで、シビックプライドの醸成が重要になってきます。このまちが好きだという市民が多くなれば、それは幸せにもつながってきます。そのため一番に優先するのは、市内外問わず豊川市を好きだという人を増やすことです。そこから外への広がりをもたせたいと、個人的には考えています。戦略案については、いただいたご意見も踏まえて検討していきます。

(委員)

シビックプライドの醸成に関連するところでいえば、今まで保育園から高校生までの年代に向けて授業を実施してきましたが、最も反応がよかったのが中学生でした。小学生は親御さんの意見に影響を受ける部分が多く、高校生は忙しいという背景がある一方で、中学生は行動範囲が広がり、友だちと出かけるが多いです。授業で紹介した場所に実際に行ってくれて、興味をもってもらえるのは中学生という印象があります。そのため、戦略のアプローチをもっと広げててもよいかもしれません。

(事務局)

次のステップで考えたいと思います。

.....

【会議後意見書】

(会長)

【資料 1－8 P.8～10】

人口シミュレーションにおいて、国の長期ビジョンに基づいて、合計特殊出生率が 2060 年に 2.07 になることを想定して推計されている。本市の目標値の計算なので理解できる部分もあるが、一方で 2060 年に 2.07 という目標は、時間の経過とともに、現実からますます乖離していくことが懸念される。人口の縮減を冷徹に直視したうえで、「縮減社会」に相応しい持続可能な行政サービスを模索していく姿勢も重要だと思われる。

(副会長)

【資料 1－4 P.6】

「進行管理の進め方」と見出しがあるが、目次にはなく、何故この文字を四角で囲んで表示しているわからない。

【資料 1－4 P.7】

「生かし」は「活かし」ではないか。

【資料 1－4 P.15】

「⑥強制社会づくりの重要性」の文章中に記載されている「社会情勢の様々な変化の中で身近な人権侵害が表見化し、」という部分は不要かと思う。

(委員)

【資料 1－6】

「基本方針 3 多様な主体との協働・連携を進めます」の「多様」には他市・他県も明記してほしい。(Bリーグなどのスポーツ振興や観光分野等豊川単市だけでは限界がある)

【資料 1－8】

将来人口目標、合計特殊出生率中心で社会増（移動率改善）の内容がわかりづらい（パターン3の肝）。能動的アクションで合計特殊出生率を上昇させるのは難しいが社会増は本気のアクションで改善できる（資料1-6の人口の見通しにおいても社会増に関する記載がなく意識が低いのではないか）。

「高齢化」への意識もあるので合計特殊出生率に重きを置きがちだが、アクション対効果の高い数値軸が良いのでこの部分はもう少し詳しく知りたい。

合計特殊出生率について、実施計画ではもう少し目標を細分化した方が良い（例：対象年代世帯のうち3人以上の子供世帯数もしくは割合、3人目以上の出産数もしくは割合など。2.07は少なくとも3人以上の子がいる世帯が増えないといけないため）

【資料2-1】

「シビックプライド」というパワーワードで片付けられているがもう少し解像度を上げるべき。豊川市における「シビックプライド」の定義は？どのような状態になれば「シビックプライド」が醸成されたことになるのか？など。評論家・専門家や研究者みたいな実体のない表現はやめてほしい。

中学生へのアプローチは必須。エビデンスはないが肌感でこの時期の経験体験が将来を決めると思う。自我が芽生え自己を作り自立し始めるこの時期は非常に重要な時期だと思う。